Okinawa Prefectural College of Nursing

かせかけ No.27

沖縄県立看護大学広報誌
2015（平成27）年11月30日

CONTENTS

○看護大学を体験！2015オープンキャンパス …… 2
○第17回　看大祭 …… 3
○シリーズ　のぞいてみよう看護大学
・学部「精神保健看護」…… 4
・学部「地域保健看護」…… 4
・学部「早期体験実習」…… 4
・大学院「実践島嶼保健看護」…… 5
○地域貢献だより
・開学記念事業 …… 5
○海外研修セミナー　–ハワイ2015–に参加して … 6
○中南米研修生来たる　JICA研修 …… 7
○大学見学ツアー …… 7
○サークル活動紹介 …… 7
○発見！素敵な横顔 …… 8
○平成27年度 主な大学行事日程 …… 8

2015 看護大学

看護大学を体験しよう！

オープンキャンパス

「見て聞いて触れて看護大学を体験」　広報・情報専門部会　金城 忍

平成27年８月１日（土）に開催されたオープンキャンパスは，台風の影響で１週間の延期となりましたが，320名余りの方にお越しいただきました。大学紹介コーナーでは，200名収容の大講義室が満席になり，席を追加して案内するほどの盛況ぶりでした。相談コーナーでは，本学の特徴や奨学金，卒業後の取得免許や資格についてなど多くの質問がありました。例年好評の体験コーナーには「赤ちゃん教室へようこそ！」「Love　&　命の誕生」，展示コーナーには「助産師になりた～い！」などがあり，ボランティアの学生たちや担当教員から熱心に説明を受けている来場者の姿が印象に残っています。また「キャンパスツアー」では，和やかな雰囲気の中，学生ボランティアから入学後の様子を聞く姿が見られ，アンケートにも「入りたい気持ちが高まった」「参加して良かった」などの回答も多く寄せられたことから，非常に充実した１日になったことと思います。

「意欲にあふれた若い力へ期待」　別科助産　講師　中原 芳子

今年の別科助産専攻では「助産師になりた～い！」をテーマに準備を進めていきました。会場では展示を中心に、助産師の仕事、助産師教育課程に関すること、そして別科助産専攻の学生生活を紹介しました。

今年は学生達が「来場する人に伝えたい事」等の意見やアイディアを持ち寄りながら会場づくりを行うなど積極的に企画・運営に参加していました。当日は会場の案内も含めて多くの高校生を相手にコミュニケーションを楽しんでいる姿も見られ、助産師を目指す後輩や仲間についても意識する機会となったのではないでしょうか。前期のカリキュラムを終えたばかりの学生達でしたが、助産師という職業にすでに誇りを持っている様子で頼もしく思いました。

午前中の説明会では現役の看護学生が多く見受けられました。助産師になるために学ぼうという意欲にあふれた若い力に期待したいと思います。

「個別進学相談の一コマ」　大学院研究科　教務委員会　永島 すえみ

ハワイ諸島南西で７月13日に発生した台風ハロラ（Halola）が、日付変更線を越えて台風12号となって沖縄本島に接近したため、７月25日（土）に予定されていたオープンキャンパスは１週間順延し８月１日（土）に実施された。既に沖縄入りしているとの本州在住の進学希望者から連絡が入り、個別進学相談を希望領域の指導教授から１日を待たずに受けて帰路に着くというエピソードがあった。

オープンキャンパス当日の面談では、入学試験の過去問を熱心に検討している受験希望者の姿がみられた。また、他大学において看護学以外で学士号、修士号を取得したが看護学の大学院へ入学できるか等の相談があった。博士前期課程と博士後期課程には、３分野（文化間保健看護、生涯発達保健看護、先端保健看護）に、６領域（保健看護管理･教育、地域・精神保健看護、母性・小児保健看護、成人・老年保健看護、新領域保健看護、島嶼保健看護）の教育課程が開講されている。学習意欲を歓迎したいが、博士前期課程においては看護学以外の分野で履修・取得した授業科目の単位認定は行われていない。看護学への興味関心がさらに高まり、同様の相談が増えてくれば、課題として検討しなければならない日が訪れるかもしれない。

平成28年度大学入試説明会「未来の看護職を目指す受験生へ」　入学試験委員会　安谷屋 均

平成28年度第１回沖縄県立看護大学　大学紹介・入学試験説明会をオープンキャンパスで実施しました。平成28年度看護学部入試説明会を３部に分け、１部（午前９時：視聴覚室）は県内高等学校進路指導の先生を対象に、２部（午前10時：大講義室）は受験生および保護者を対象に、３部は個別進学相談を設け（午前11時：中講義室）行いました。同時に別科助産専攻入試説明会（午前10時：講義室）も開催し、受験生および病院関係者を対象とした説明と個別進学相談を行いました。説明会には県内外を含め約340名の受験生、学校および病院関係者の参加がありました。未来の看護職を目指す多くの受験生の皆さんの参加がいただけるように今後も努力していきたいと考えております。

看大祭

smile for you!

与ってらっしゃい！ 診てらっしゃい！

「一生涯の宝物。第17回看大祭」

第17回看大祭実行委員長　嘉陽 勇太

『第17回看大祭』を運営するにあたり、私は実行委員長として全体の業務を把握した上で運営が円滑に進むようサポートしていくという役割を務めました。役割を果たす上でつまずくこともありました。そんな時は自分なりに改善や工夫をすることに加えて、頼もしい実行委員メンバーからの温かくて力強いサポートもあったおかげで、看大祭当日の大成功へとつなげることができました。

今年の看大祭は恒例の学生主体の出店に加え、初の取り組みとして学食「エンジェル」による出店や、沖縄国際映画祭PR上映会などを行いました。それらを通して地域の方々との密な交流を実現することができたと感じています。

この看大祭での経験は、私たち実行委員をはじめ学生達にとって "一生涯の宝物" になると確信しております。

『第17回看大祭』を開催するにあたりご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました。

「JOICFPを通して世界の母子保健へ貢献する」

別科助産専攻　直井 清楓

私たち別科助産専攻では、世界の妊産婦と女性の命を守るための国際協力NGOであるJOICFPの活動内容や世界の母子保健の現状について知ってもらえるきっかけになればと思い、バザーによる募金活動を行いました。バザーにより集まった金額は２日間で75,898円となり、ジョイセフへ全額寄付させていただきました。ご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。またJOICFPのご厚意により、パンフレットやポスターなどの提供を受けることができました。多くの方からご協力いただけたこと、本当にうれしく思います。そして、来場してくださった方が母子保健やお産について少しでも興味をもつきっかけになっていることを願います。ありがとうございました。

「笑いと感動いっぱいの後夜祭。事前準備の努力が実を結ぶ」

後夜祭実行委員長　比嘉 和希

毎年恒例となっている後夜祭。今年も多くの出演者がダンスやコント、歌唱力で盛り上げてくれ看大祭のトリを務めてくれました。後夜祭実行委員の主な取り組みとしての出演者との打ち合わせや機材の手配などは主に夏季休暇中に行いました。先輩方の協力や大学側からのサポートを受けながら進めた事前準備を整える努力が実を結び、2015年後夜祭を成功させることができました。後夜祭は、笑いと感動をもたらす以外にも普段の学校生活では関わることの少ない他学年との交流や学生間の協調性、自主性を身につけるきっかけになったと思います。

2015年後夜祭に出演・協力して頂いた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

シリーズ

のぞいてみよう看護大学

精神保健看護　学部と大学院での学び方の違い

精神保健看護領域　教授　藤野 裕子

学部では、まず、メンタルヘルスや精神の健康とは何かを学びます。次に、代表的な精神疾患を学ぶことと並行して、精神に障害のある方の看護について，演習や実習を行います。特に、プロセスレコードを用いて対人関係過程を振り返ることは、精神障害者と接する際の自己の偏見や人間関係の成立についての学びに大きく繋がります。実習で行った看護場面を振り返ることは、自分自身の人間関係づくりにも役立ちます。

大学院は、精神看護専門看護師コースを紹介します。大学院では、精神看護領域の理論を基盤として、困難事例の全人的アセスメントやコミュニケーション・スキルについて、専門的に学習します。これまで３人の修了生を輩出し、うち１人が平成27年度専門看護師認定試験に合格しました。現在１年次に１人在籍し、仕事をしながら講義・演習を受けています。

地域保健看護　支援対象は赤ちゃんからお年寄りまで。幅広く学びます!!

地域保健看護　准教授　牧内 忍

地域保健看護の実習をご紹介します。

地域保健看護実習Ⅰ：沖縄本島南部の市町村４カ所で、２年次学生20名ずつで地域アセスメントの実習を行います。

地域保健看護実習Ⅱ：離島を含む沖縄県内41市町村のうち、毎年約25の市町村で、４年次学生が３週間の実習を行います。地域アセスメントに基づく健康教育や健康診査、健康相談、家庭訪問などの基本的な保健師業務の実習が中心です。市町村の保健部門、介護保険、福祉分野等の業務、保健所の機能・役割について、また、それぞれの分野や関係職種との連携についても学びます。支援する対象は、母子保健、成人保健、障害者保健、高齢者保健と、ほぼ全年齢にわたり、生活習慣病予防、次世代育成支援、介護予防など幅広く学びます。

早期体験実習　モデルナースから看護の役割や魅力を考える。

成人保健看護　准教授　仲宗根 洋子

早期体験実習は、４月に入学した１年次が６月中旬から週１回、５週間にわたり看護が実践されている様々な場で行われます。そこでは看護役割モデルとなる看護職者の仕事を観察し、看護職者が果たしている役割や看護の意義、社会における期待を理解し、今後の職業的準備のあり方を学習します。毎年10名の実習生を受け入れているN病院では、施設側がモデルナースのリストを作成し、学生を割り当てています。また学びを共有する場として実習最終日には院内報告会が行われます。まず学生の具体的場面の報告が行われ、その後指導ナースから具体場面の補足や学生の気づきの新鮮さと成長度合い、自己の実践者としての振り返りが語られます。看護大に入学して３ヶ月足らずの“**看護とは**”に揺れ動いている学生たちは、臨床現場の体験の中から湧き出た多くの質問をモデルナースへ浴びせ、実践者として経験を十分に積んだモデルナースを揺さぶる役目も果たしているようです。

実践島嶼保健看護　小規模離島で働く看護師育成を目指して!!

実践島嶼保健看護　准教授　宮里 智子

実践島嶼保健看護は、座間味島や波照間島などのような小規模離島の診療所において、その島で生活する様々な健康レベルにある子どもから高齢者を対象に、高度な看護実践を行う看護師の育成を目指しています。現在、４人の大学院生が在籍しており、宮古島、石垣島、久米島、沖縄本島の病院で働きながら、学んでいます。９月からは、半年ほどかけて、沖縄本島の産婦人科および小児科クリニック、高齢者介護施設、急性期病院、終末期および緩和ケアを行う医療施設、訪問看護ステーションなどで専門看護師や認定看護師、医師の指導を受けながら実習を行い、小規模離島での看護実践に必要な知識や技術の修得に励んでいるところです。実習最終日には医師や専門看護師も交えたカンファレンスが行われます。

地域貢献だより

看護実践開発支援室運営委員会　井上 松代

1．平成27年 5.15開学記念イベント

「沖縄県立看護大学の地域貢献について考える」会を開催

３名の有識者を本学に招いて、学内教員との「沖縄県立看護大学の地域貢献について考える」会を開催しました。仲地　博氏（沖縄大学学長）、奥平　登美子氏（県看護協会会長）、国吉　悦子氏（県保健医療部保健医療政策課）から、「卒業生の県内への就業促進による県内看護職者の増加に貢献し続けて欲しい」、「離島や僻地で働く保健師への助言や情報提供を行って欲しい」、「学術的研究成果を看護職者に伝えて欲しい」、「看護研究に関する助言・指導、住民への健康に関する出前講座や公開講座の開催」、「立地条件の良い那覇市にある大学という強みを活かす」などのご意見があり、様々な視点から有識者の方々が看護大学の地域貢献へ期待を寄せていました。

2.「第１回 ホームカミングDay（卒業生・教職員の集い）」を開催

教職員19名、卒業生（教員で卒業生も含む）11名　計30名が参加しました。２期生の吉澤龍太さん（那覇市立病院）が、「専門看護師への道」で講演をした後、会食をしながら卒業生と教職員との親睦をはかりました。卒業生同士、お互い頼もしくなった姿を確かめ合っていました。次年度も開催しますので、お楽しみに！！

海外研修セミナー–ハワイ 2015–に参加して

ハワイで学んだことを今後の学びにつなげ、国際的な看護師に！

3年次　屋良 愛美

大きな木の下で

平成27年８月16日から９月３日までの18日間、引率教員２名と私たち学生17名はカウアイ島・オアフ島でのハワイ研修に参加しました。

最初の２週間はカウアイ島で過ごしました。カウアイ・コミュニティー・カレッジ（KCC）での講義に加えて病院や施設の見学を行いました。医療保険制度や性教育の講義の他にもハワイの歴史やロミロミマッサージ、フラダンスの授業も受けることができました。これらの授業はハワイと沖縄の共通点やハワイの心を学ぶ良い機会でした。週末のホームステイでは、ハワイの暮らしを実際に体験することができました。

オアフ島のハワイ大学内にあるシミュレーション施設は、実際の病院を再現した部屋や様々な条件を設定できるシミュレーターのある病室などがあり、別室では大きな画面で会議ができるようになっていました。

ハワイ研修に参加することで、積極的になることの大切さや伝えようとする気持ちが大事であるということを学びました。また日本とアメリカの文化の違いを知るきっかけにもなり、日本の制度や現状をさらに深く知りたいと思うきっかけにもなった研修になりました。今回学んだことを今後の学習につなげるとともに将来看護職になったときにも現場で活かしていきたいです。

貴重な異文化体験が大きな成長の一歩に

引率教員　長堀 智香子

平成27年８月16日（日）から９月３日（木）までの18日間、17名の学生と引率教員２名でハワイセミナー2015に参加しました。

最初の２週間はカウアイ・コミュニティ・カレッジ（KCC）、残り４日間はハワイ大学マノア校で研修を行いました。研修では医療現場で使える英会話や英語での講義・演習で微生物学やフィジカルアセスメントを学びました。また、高齢者ケア施設や病院、ホスピスなどの施設も見学しました。KCCでは看護に関することだけではなく、フラやロミロミマッサージなどハワイの文化も体験しました。学生にとって最も思い出深い経験となったのは２泊３日のホームステイです。親切なホストファミリーと過ごした異文化体験は、決して日本では得ることの出来ない貴重な体験となったことと思います。

３週間という長い期間でしたが、大きな事故もなく、みな無事に笑顔で帰国することができました。参加した学生たちがハワイセミナーでの学びを深め、大きく成長してくれることを期待しています。

JICA 研修
中南米から研修生来たる

公衆衛生活動による母子保健強化

―本学での研修が現場で活かされることを期待して―

国際交流室運営委員会　長堀 智香子

2015年７月29日（水）に中・南米の国々から12名の研修員が本学を訪れ、平成27年度JICA研修プログラムの一部が実施されました。当日は１．大学紹介、２．本学の看護教育についての講義（①基礎看護の講義・演習 ②助産に関する講義・演習；教育方法の工夫、分娩介助の実際）、３．国際保健看護を履修している４年次学生９名との交流会というスケジュールで研修が進められました。交流会では最初にブラジルの研修員からカントリーレポートの発表があり、続いて学生とのディスカッションを行いました。活発な討議により参加した学生たちは、既存の資料だけでは得ることの出来ない、中南米諸国の母子保健の現状を学ぶことが出来ました。研修員が本学での研修を通して、日本の看護・助産教育の理解を深め、それぞれの国に帰ってから何らかの形で現場に還元してくれることを期待しています。そしてこれからも、本学の強みを活かしながら国際協力に貢献できるよう努力していきたいと思います。

大学見学ツアー

看護や大学を知るきっかけづくりの機会として

看護実践開発支援室運営委員会　宮城 裕子

本学では、地域の皆様に大学の施設や教育風景の一部をご覧いただき、大学が地域貢献できる事を一緒に考えていく機会になること、同時に子どもたちには将来の職業選択のきっかけづくりになることを期待し、“大学見学ツアー”を開催しています。今回は８月１日（土）オープンキャンパスと同日開催され、那覇地区の小学校から生徒と保護者12名の参加がありました。血圧測定や心肺蘇生、赤ちゃんの抱っこ体験、心理学のミニ講義を受けた子どもたちからは、「赤ちゃんは生まれて何ヶ月しかたっていないのに、重くてびっくりした」、「初めて聞いた心理学に興味がわいた」、「看護師の体験ができて嬉しかった」などの感想が寄せられました。親子で和やかな雰囲気の中、看護や大学について知る１つの機会になったのではないかと感じました。

学生のサークル活動紹介

古き良き伝統を学ぶ「茶道サークル」

１年次　仲里みのり

私たち茶道サークルは15人程度と少ない人数ですが、日本の古き良き伝統を学ぶことを目的に活動しています。年に数回は茶道の先生から直接ご指導を頂く機会もあります。看大祭では、作法の説明をしながら実際にお茶を立てました。お茶と同じくらいお茶菓子も好評でした！全員が初心者なので分からないところや戸惑うこともありますが、そんな時は調べたり聞いたりしています。みんなが楽しみながら活動しています。興味のある方は見学だけでも大歓迎です。どうぞ来てください！

発見 素敵な横顔

看護学部新任教員

精神の宇良です！　精神保健看護　講師　宇良 俊二

９月１日より精神保健看護の講師に着任しました宇良俊二（うらしゅんじ）です。精神科で看護師をしていました。精神科以外では役に立ちません。はたして精神科でも役に立っていたのか、迷惑をかけていたのか・・・。個人的には精神科は魅力がいっぱいだと感じています。「ひとのこころってふしぎだなぁ～」と思う方！精神科看護に興味のある方！私と一緒に沖縄県の精神科看護の未来について語り合いましょう。

さて本題に入りますが、一応探してみましたが「素敵な横顔」は所持しておりませんでした。この程度でお許し下さい。

地域保健の楽しさを伝えたい！　地域保健看護　助教　岡崎 実子

６月１日付けで地域保健看護の助教として着任しました。これまでは毎日、島風を感じながら離島で保健師をしていました。長崎出身で沖縄生活は９年目。住民の方々（特に高齢者）や役場の職員に鍛えられ、初めは難解だった島の方言も、聞き取りならば中級ぐらいになりました。

実習指導を通して小規模離島と都市部の保健活動の違いを感じています。予防活動に力を入れ健康を守る都市部の活動も素晴らしいのですが、住民とより密接に関わることができ、その反応がダイレクトに返ってくる魅力が小規模離島にはあります。地域保健の楽しさを学生に伝えていけるようがんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

事務局新任者

大都会での生活にわくわく !!　総務課　森　哲人

平成27年４月付けで北部土木事務所から沖縄県立看護大学に赴任しました森哲人（もりてつひと）と申します。名護市から那覇市に移り住むことになり大都会での生活にわくわくしております。ちなみに出身地は糸満市です。

最近の悩みは、色白なところや背格好が似ていることからか、学務課の宮城さんに間違われることがあります。声を掛けられ、振り返ると少し残念な顔をされているように見えるのは気のせいでしょうか。宮城さんファンの方申し訳ありません(笑)。

本学は緑が溢れる美しい大学だと思います。この素晴らしい環境を維持していくことも私の仕事だと思います。看護職を目指す皆様方にこれからもより良い環境を提供出来るよう努力したいと思います。

● 平成27年度の主な大学行事（平成27年４月～平成28年３月）

４月３日（金）入学式
４月６日（月）前期授業開始
５月15日（金）開学記念日
７月25日（土）オープンキャンパス
８月16日（日）～９月３日（木）ハワイ研修
９月５日（土）大学院入試
９月12日（土）～13日（日）第17回看大祭
10月１日（木）後期授業開始
11月14日（土）特別選抜入試（看護学科）
推薦選抜・社会人特別選抜入試（別科助産専攻）
１月16日（土）～17日（日）大学入試センター試験
２月10日（水）一般選抜入試（別科助産専攻）
２月25日（木）一般選抜入試（前期・看護学科）
３月12日（土）一般選抜入試（後期・看護学科）
３月15日（火）卒業式・修了式

「かせかけ」とは

かせかけとは、琉球古典舞踊七踊りの一つです。綛（かせ）とは紡いだ糸を巻く道具で、綛掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つ看護職者の育成をめざしています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って縞麗な着物に仕立てていく、その一途の心と地道にして洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。

琉球古典舞踊「かせかけ」に用いる道具

沖縄県立看護大学
〒902-8513　沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098) 833-8800 (代表)　FAX (098) 833-5133
http://www.okinawa-nurs.ac.jp

編集　沖縄県立看護大学／広報・情報専門部会
発行　2015（平成27年）11月30日

沖縄県立看護大学　検索